

# 世田谷区における中小企業の景況

## 第44回調査実施概要

- 調査時期 : 平成25年7月1日 ~ 7月12日
- 対象期間 : 平成25年4月 ~ 平成25年6月期、及び平成25年7月 ~ 平成25年9月期見直し
- 調査対象 : 支部会員中小企業 (約2,794社)
- 調査方法 : 調査票郵送 ~ 郵送・FAXにて回収。世田谷信用金庫・昭和信用金庫に協力依頼。
- 回収状況 : 合計 369社 (回収率 = 12.5%)

①製造業・建設業・運輸業・その他の業種(②~④を除く)	資本金3億円以下、または従業員300人以下	③小売業	資本金5千万円以下、または従業員50人以下
②卸売業	資本金1億円以下、または従業員100人以下	④サービス業	資本金5千万円以下、または従業員100人以下

製造業	41社	不動産業	46社	小売業(飲食業含む)	77社
建設業	57社	卸売業	49社	サービス業	99社

### 概況

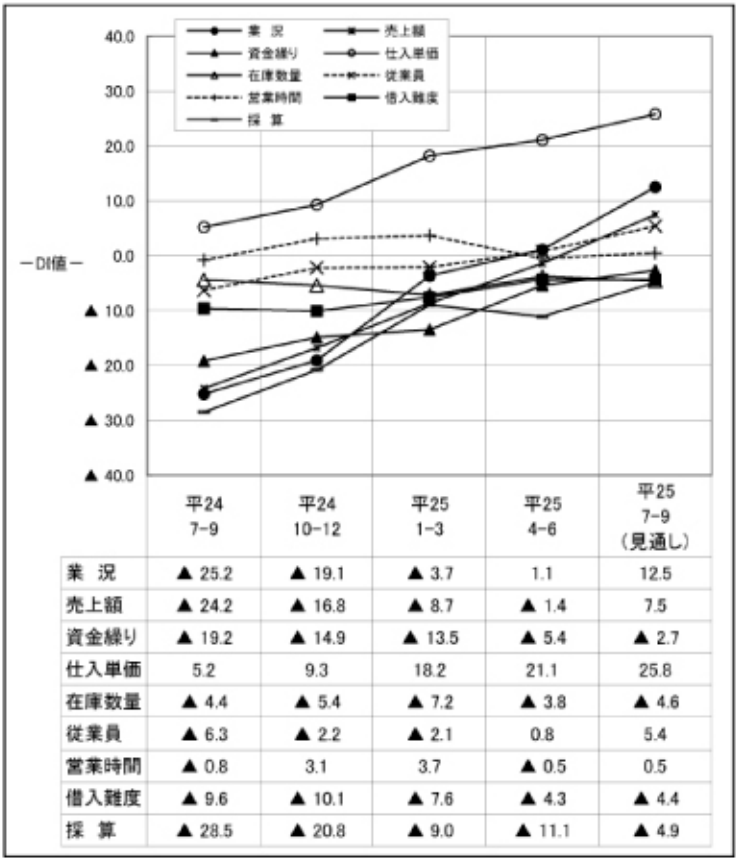
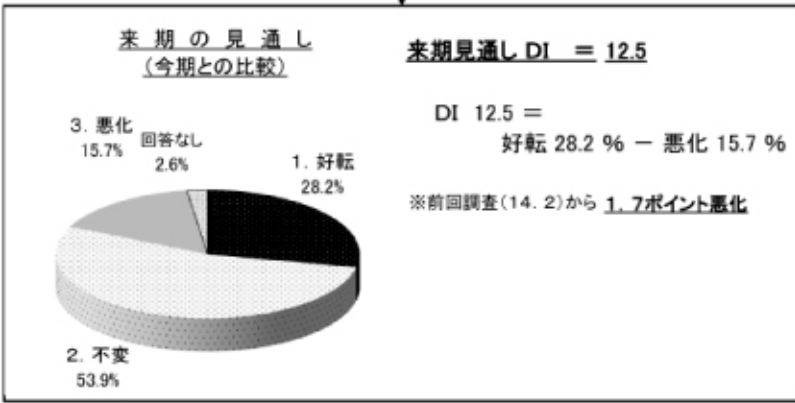
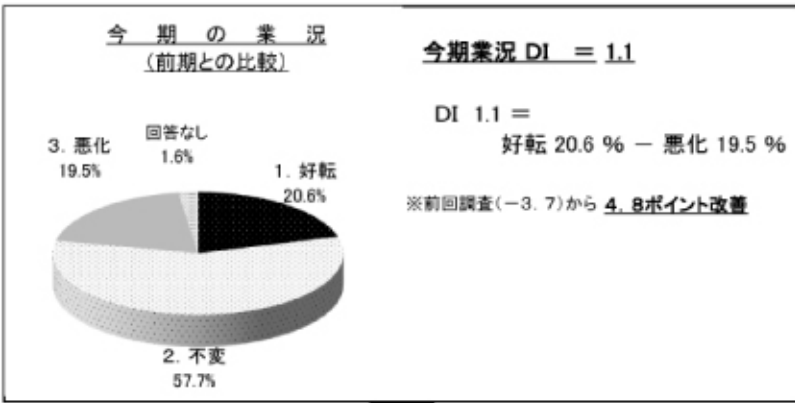
<DI(Diffusion Index)とは…>  $DI(\%) = \text{「良い」「増加」等企業割合} - \text{「悪い」「減少」等企業割合}$   
 DIとは、各設問の項目について、「増加」「好転」したとする企業の割合から、「減少」「悪化」したとする企業の割合を差し引いた値です。したがってDIがプラスを示している場合は、全体として「増加」「好転」とする企業が多く、景気(またはそれぞれの要素)が上向きの傾向にあることを示します。逆にマイナスを示している場合は、景気が低迷の傾向にあることを示します。

### 業況

今期(平成25年4月-6月期実績)の業況DIは水面上の1.1ポイントで、前期から4.8ポイント改善した。業況DIがプラスとなるのは、平成17年10月-18年3月期以来。来期の業況見直しDIは、12.5ポイントと、前期から1.7ポイント悪化した。前期に引き続き2桁のプラスを維持。

### 主な指標別の傾向

今期は、営業時間▲0.5(前期比▲4.2)、採算▲11.1(同▲2.1)は悪化幅が増加したものの、他7指標で悪化幅が縮小、改善した。来期見直しは、売上額7.5(当期比+8.9)、営業時間0.5(同+1.0)の2指標がプラスに転じる見直し。



### ■主要景況指数表

(注)調査項目: 業況(好転⇄悪化)、売上額(増加⇄減少)、資金繰り(好転⇄悪化)、仕入単価(上昇⇄低下)、在庫数量(増加⇄減少)、従業員(増加⇄減少)、営業時間(延長⇄短縮)、借入難度(容易⇄困難)、採算(好転⇄悪化)

#### 今期の状況 (前期比)

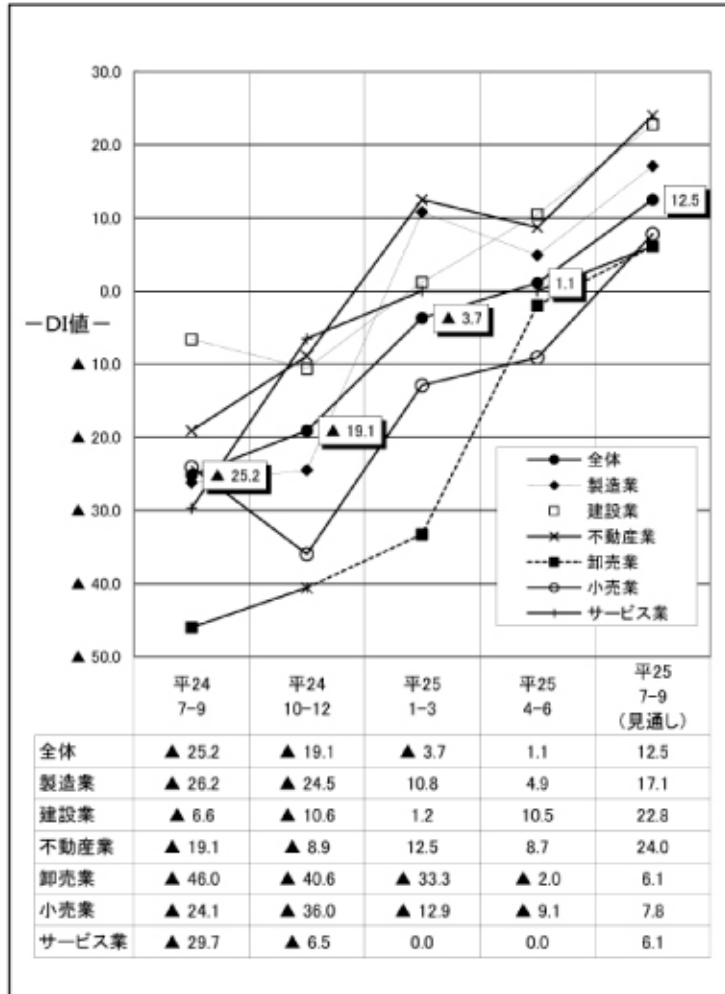
	業況	前年同期比	売上額	前年同期比	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	1.1	▲4.8	▲1.4	▲4.9	▲5.4	21.1	▲3.8	0.8	▲0.5	▲4.3	▲11.1
製造業	4.9	▲9.7	▲9.8	▲7.3	▲14.7	39.0	▲2.4	▲4.9	▲7.3	▲7.4	▲14.6
建設業	10.5	7.0	0.0	10.5	0.0	28.0	▲12.2	▲5.2	▲1.8	0.0	▲12.3
不動産業	8.7	13.1	10.9	10.9	6.5	6.5	2.2	2.1	▲2.1	▲2.1	8.7
卸売業	▲2.0	▲14.3	6.1	▲6.2	6.1	32.7	▲6.1	0.0	4.1	▲6.1	▲4.1
小売業	▲9.1	▲14.3	▲1.3	▲10.4	▲10.4	15.6	0.0	2.6	▲2.6	▲1.3	▲14.3
サービス業	0.0	▲6.1	▲8.0	▲15.2	▲12.1	15.1	▲4.0	5.1	3.0	▲8.1	▲19.2

#### 来期の見直し (当期比)

	業況	売上額	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	12.5	7.5	▲2.7	25.8	▲4.6	5.4	0.5	▲4.4	▲4.9
製造業	17.1	22.0	7.3	29.3	▲9.8	2.5	▲2.5	▲7.3	0.0
建設業	22.8	14.1	▲1.8	36.8	▲1.7	7.0	▲1.8	0.0	▲8.8
不動産業	24.0	17.4	2.2	15.2	2.2	6.5	4.3	▲2.2	0.0
卸売業	6.1	4.1	▲6.1	40.8	▲10.2	6.2	2.0	▲12.3	▲12.3
小売業	7.8	3.9	▲7.8	27.3	▲5.2	3.9	▲2.6	▲2.6	0.0
サービス業	6.1	▲2.0	▲4.1	14.2	▲4.1	6.0	3.0	▲4.0	▲7.0

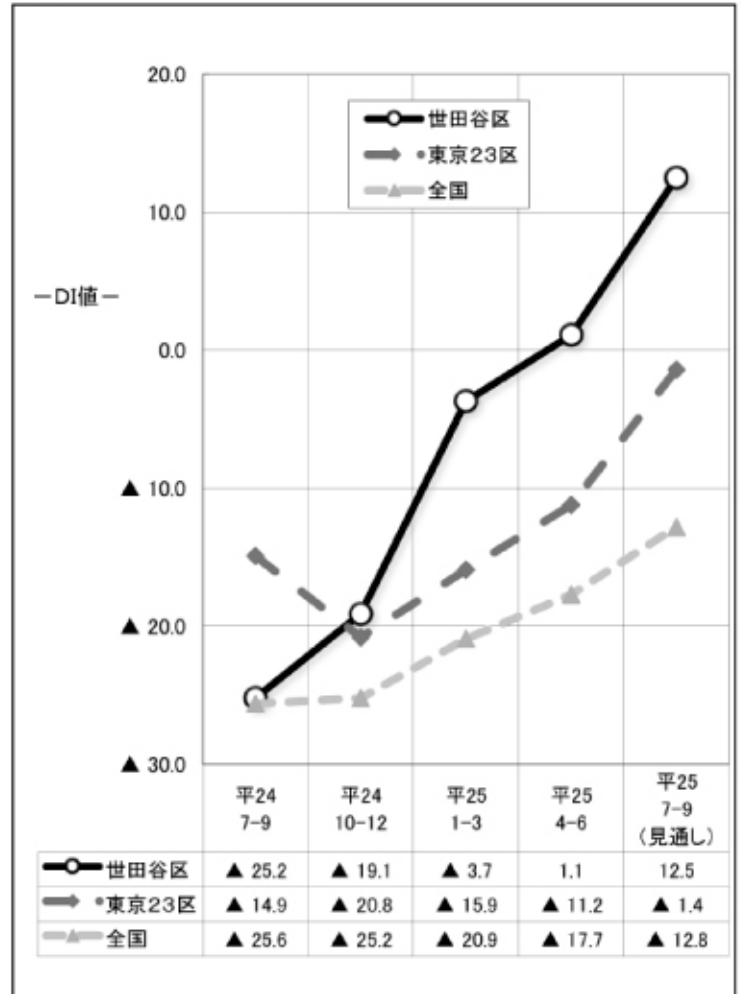
## 業種別の動向

今期の業種別DIは、「サービス業」(0.0ポイント、前期比0.0)以外の全業種で悪化幅縮小・改善した。特に、「卸売業」(▲2.0ポイント、前期比+31.3)は悪化幅が大きく縮小した。来期は全業種で、大幅な改善となる見通し。



## 東京都・全国との比較

「世田谷区」では1.1ポイント(前期比+4.8)に改善し、プラスに転じた。「世田谷区」がプラスとなったのは、平成17年下期以来となる。「東京23区」、「全国」ともに悪化幅が縮小した。来期、「世田谷区」は2桁のプラス、「東京23区」と「全国」は、悪化幅が大きく縮小する見通し。



※データ参照(データ:業況判断DI前期比)  
 東京23区=「東商けいきょう:業況判断DI」(東京商工会議所)  
 全国=「中小企業景況調査 業況判断DI(前期比季節調整値)」(独立行政法人中小企業基盤整備機構)

## 経営上の問題点

1位「仕入単価、下請単価の上昇」25.2% (前期比+4.3)は、前回順位は5位であり、20期ぶりに1位となった。上位5位までの項目は、「需要の停滞」23.3% (前期比▲3.6%)が前回1位から2位へ下降など、順位の入替わりがあった。6位以下の項目は、7位「人件費の増加」16.8% (前期比+2.0%)で前回9位から上昇、9位「人件費以外の経費の増加」15.7% (前期比▲0.7)で前回7位から下降した。上位5位までの項目は前回から、変わっていない。

順位	項目	回答数	回答率	前回順位
1	仕入単価、下請単価の上昇	93	25.2%	↑ 5
2	需要の停滞	86	23.3%	↓ 1
3	新規参入者の進出や同業者の増加	78	21.1%	↑ 4
4	販売単価、製品単価、請負単価の低下・上昇難	75	20.3%	↓ 3
5	購買ニーズの変化への対応	74	20.1%	↓ 2
6	大企業(大型店)進出による競争激化	71	19.2%	- 6
7	人件費の増加	62	16.8%	↑ 9
8	従業員の確保難	60	16.3%	- 8
9	人件費以外の経費の増加	58	15.7%	↓ 7
10	取引条件の悪化	39	10.6%	- 10
11	事業資金の借入難	34	9.2%	- 11
12	店舗・倉庫の狭隘・老朽化	28	7.6%	↑ 13
13	購買力の他地域への流出	24	6.5%	- 13
14	生産設備の不足・老朽化	22	6.0%	↓ 12
15	代金回収の悪化	18	4.9%	↑ 16
16	その他	15	4.1%	↓ 15
17	在庫の過剰	14	3.8%	- 17
18	金利負担の増加	12	3.3%	↓ 17
19	在庫の不足	5	1.4%	- 19
20	生産設備の過剰	2	0.5%	- 20

※複数回答(3つまで選択)のため、回答率の合計は100%を超える。